

番号	58	名称	弁慶橋
指定日	平成 19 年 3 月 28 日	所在地	千代田区紀尾井町～港区元赤坂一丁目（弁慶濠）
設計者		竣工	昭和 60 年（1985）
			
<p>歴史・文化的特徴</p> <p>明治 22 年（1889）に初めて架けられる。木橋で擬宝珠に筋違橋や浅草橋等のものが使われ、江戸期の木橋の記念碑のような橋であった。清水谷の沢筋と赤坂を直に結ぶこととなり、外濠の中で最も水面に近い橋となった。明治 14 年頃には、赤坂見附への坂道に桜が植えられ、弁慶橋は東京の新名所となった。明治 44 年（1911）改架となった。</p> <p>昭和 2 年（1927）震災復興橋梁として改架となり、昭和 20 年（1945）5 月 25 日の山手大空襲で高欄焼失。昭和 25 年（1950）に高欄復旧となる。昭和 60 年（1985）11 月に改架した。</p>			
<p>意匠・構造の特徴</p> <p>簡素な単純桁橋であるが、全体に若干のアーチをかけ梁組をみせた木橋風とし、擬宝珠や高欄等の細部に和風の意匠を施し特徴的な橋としている。</p>			
<p>周辺景観との関係</p> <p>歩行者からは擬宝珠がある和風の高欄が目にとまる。高層ビル群や紀尾井町の緑、弁慶濠の水面に対する眺望点である。橋が低く、水面を間近に感じる視点場でもある。</p> <p>周辺道路や公園から和風の橋の印象的な全景や、石垣や緑、弁慶濠の水面と調和した景観を見ることができる。</p> <p>赤坂からは高層ビルと緑豊かな紀尾井町へ至るゲートとして高揚感のある景観を生み出している。</p> <p>逆に紀尾井町からはビルや首都高速道路の高架が近未来的な景観を生み出している。周辺はホテルや公園が並ぶ一帯であり、これらの利用者の通行が多い。</p>			